

岐阜大学教職大学院学校管理職養成コース特別講義

「なぜ、国の官僚が学校の校長になったか？」

「人事と指導を一括して担う組織トップリーダーの思いに迫る」を開催しました。

岐阜大学教職大学院学校管理職養成コースでは、岐阜県教育委員会から派遣される現職教員を対象に、学校経営専門職のための大学院教育を行っています。その一環として、教育行政のプロをお招きし、特別講義を行っています。「教育政策の理論と実践」の2コマとして、令和6年12月2日（月）に岐阜市立長良東小学校校長の中村有希先生から「なぜ、国の官僚が学校の校長になったか？」をテーマに、令和7年1月9日（木）に岐阜県教育委員会義務教育課課長の山田高秀氏から「人事と指導を一括して担う組織トップリーダーの思いに迫る」をテーマにご講義いただきました。

中村先生は、文部科学省から岐阜県教育委員会に3年間出向され、今年度から岐阜市内の小学校で校長を務められています。毎年、高度な見識をもとに、管理職の役割を、行政学、経営学、教育学、心理学等を統合し、わかりやすくお話しくださいます。今回も、管理職の職務を踏まえたうえで、岐阜県の教員のキャリアステージを取り上げ、校長（管理職）の指標を教頭や教諭と比較する体験的な学び、今の子どもたちが生きていく社会のトレンドを前提に、持続可能な社会の創り手の育成や日本社会に根差したウェルビーイングの向上を目指した教育のあり方の提言、勤務校を例に、学校で当たり前とされていることに疑問を持ち、育成すべき人材を育てる教育の具体、などを紹介されました。

受講した院生からは、「先の予測が困難な時代に、これからの社会がどうなっていくのか、求められる教育は何なのかについて考える機会をいただきました」、「“学校の当たり前”とは何か、いくつかの事例から気づかされました」「子どもに軸足を置くことに徹底した教育の視点について丁寧にお話しいただきました」等の感想がありました。受講した院生が、今後の管理職が念頭に置くべき教育のあり方について、未来の予測、現状の教育の見直し、子どもに育成すべき力の観点から認識を深めることができ、とても有意義な講義となりました。



山田氏は、岐阜県教育委員会での豊富な勤務経験に加え、各務原市内の小学校における校長経験もあり、現在は岐阜県教育委員会の義務教育課課長の要職を務められています。今回は、「“義務教育課”が担う役割と使命」、と題して、組織改編された義務教育課で人事と指導の両面において果たされている重責等を紹介されました。

受講した院生からは、「教育の最上目標が“子どもの力をつけること”だという考えがとてもシンプルで分かりやすく心にすっと落ちました」「管理職として、置かれている状況をプラスに捉え、今ある状況の中でできることを考えていくことの大切さを学びました」「複雑化、多様化する学校課題や教員の働き方改革等の様々な課題がある中で、管理職としてのあり方や組織マネジメント能力の重要性について学ぶことができた」等の感想があり、管理職のあり方を学ぶ、とても有意義な講義となりました。

